

2:14 そこで、ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々にはっきりとこう言った。「ユダヤの人々、ならびにエルサレムに住むすべての人々。あなたがたに知っていただきたいことがあります。どうか、私のことばに耳を貸してください。

2:15 今は朝の九時ですから、あなたがたの思っているようにこの人たちは酔っているのではありません。

2:16 これは、預言者ヨエルによって語られた事です。

2:17 『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

2:18 その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。

2:19 また、わたしは、上は天に不思議なわざを示し、下は地にしるしを示す。それは、血と火と立ち上る煙である。

2:20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。

2:21 しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。』

2:22 イスラエルの人たち。このことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと不思議としるしを行われました。それらのことによって、神はあなたがたに、この方のあかしをされたのです。これは、あなたがた自身をご承知のことです。

2:23 あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。

2:24 しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、ありえないからです。

2:25 ダビデはこの方について、こう言っています。『私はいつも、自分の目の前に主を見ていた。主は、私が動かされないように、私の右におられるからである。

2:26 それゆえ、私の心は楽しみ、私の舌は大いに喜んだ。さらに私の肉体も望みの中に安らう。

2:27 あなたは私のたましいをハデスに捨てて置かず、あなたの聖者が朽ち果てるのをお許しにならないからである。

2:28 あなたは、私にいのちの道を知らせ、御顔を示して、私を喜びで満たしてください。』

2:29 兄弟たち。父祖ダビデについては、私はあなたがたに、確信をもって言うことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日まで私たちのところにあります。

2:30 彼は預言者でしたから、神が彼の子孫のひとりをして彼の王位に着かせると誓って言われたことを知っていたのです。

2:31 それで後のことを予見して、キリストの復活について、『彼はハデスに捨てて置かれず、その肉体は朽ち果てない』と語ったのです。

2:32 神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。

2:33 ですから、神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。

2:34 ダビデは天に上ったわけではありません。彼は自分でこう言っています。『主は私の主に言われた。

2:35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまではわたしの右の座に着いていなさい。』

2:36 ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。

2:38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。

2:39 なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。」

2:40 ペテロは、このほかにも多くのことばをもって、あかしをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って彼らに勧めた。  
2:41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。  
2:42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。  
2:43 そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議とするしが行われた。  
2:44 信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。  
2:45 そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。  
2:46 そして毎日、心をつにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、  
2:47 神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。

## はじめに

先週は、使徒 2 : 1-13 を学びました。私たちはその中で、聖霊の目的が神の御国の福音を告げ知らせるというイエスの働きを継続することだと学びました。聖霊は、イエスの弟子たちがイエスの働きを証する役立つ証人となる力を与えるために来られました。

イエスはもう天におられますが、地上での主の働きは、主の聖霊に満たされた人々によって続けられるのです。

弟子たちがひとつの目的を持って団結し、イエスのことばを信じて、聖霊の降臨を待っていたことも学びました。

また、激しい風と炎のような舌の意味も学びました。

風は目で見えなくても、風の効果は一目瞭然です。

聖霊の働きも同じです。聖霊を目で見ることはできませんが、聖霊の働きがもたらす効果は見えます。おもな効果は、心が変われることで、その結果、行いも変わります。

悪い心がきよめられると、行動や考え方が変わります。

炎のような舌というのは象徴的だったろうということもわかりました。

火は浄化することも、破壊することもできます。

預言者イザヤの例では、火が預言者をきよめる象徴でした。きよめられて、神の御手の器として用いられるためです。(イザヤ書 6 : 6-7)

使徒 2 章で聖霊は、人々が習ったことのない言語で話せるようにしてくださいました。これは、その時点から福音のメッセージが全世界に開かれたことを示すためでした。そして、福音のメッセージが世界中のあらゆる国の人々をひとつにする要素となることを神が望まれていると示すためでした。

聖霊は、人の個人的な期待を満たすために与えられるのではなく、イエスの働きを継続させるために与えられます。

というわけで、先週の学びをまとめると、聖霊降臨は、イエスの弟子たちが証人として役立つ者となるためでした。

しかし、その過程で聖霊は心を変え、弟子たちの中にある不純物をきよめる業を始められました。

そのような劇的な聖霊降臨の後で、ペテロは立ち上がって人々に聖霊のことを話すだろうと普通なら考えるでしょう。

しかし、ペテロはそうしませんでした。ペテロはイエスのことを話しました。彼は、聖霊降臨の目的を果たしました。その目的とは、イエスのために、イエスのことを伝える証人となることです。

今日、この個所に書かれてある事柄すべてを網羅することはできませんが、今日の個所を 4 つにわけて学びます。

1. ヨエルと五旬節 (17-21 節)
2. 詩篇とイエス (22-36 節)
3. 群衆の反応 (37-41 節)
4. 教会の原型 (42-47 節)

### 1. ヨエルと五旬節 (1-21 節)

ペテロはまず、13 節であざけていた人たちの意見を退けました。彼らは、あらゆる言語で話していた人たちが酔っぱらっていると言いました。ペテロは、まだ午前 9 時だから、その人たちは明らかにお酒を飲んだのではないと言いました。

そして、ユダヤ人の聖書から預言者ヨエルの言葉を指し示しました。

それは、ヨエル書 2 : 28-32a です。

ここで考えなくてはならないのは、ペテロがなぜヨエル書のこの箇所を引用したか、そして、イエスの弟子たちに天から聖霊が注がれたとき、五旬節という日が持つ意味は何だったかです。ペテロがここでヨエルの預言を引用しているのは、死海文書が「ペシャー」と呼ぶものに非常に似ています。「ペシャー」とはヘブル語で「注解」という意味です。

この文脈では、成就したことに照らし、旧約聖書を解き明かしているということです。

ペテロは、今この預言が成就した、と言っているのです。

まず理解しなくてはならないのは、17 節の冒頭の「神は言われる。終わりの日に、…」という部分です。

ここを理解しないと、要点を見逃してしまい、なぜ月が血に変わっていないのか、と疑念を持ってしまうかもしれません。

新約聖書の著者は皆、「終わりの日」というのがイエスの降誕と再臨の間の時代だと信じていました。

その最終的な証拠となったのが、五旬節に起こった聖霊降臨です。

ここで、「終わりの日」について取り上げた箇所をいくつか読んでみましょう。

### ヘブル 1 : 1-2

1:1 神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、

1:2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

### ヤコブ 5 : 3

5:3 あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。

### テモテ第二 3 : 1-7

3:1 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。

3:2 そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、

3:3 情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、

3:4 裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快樂を愛する者になり、

3:5 見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。

3:6 こういう人々の中には、家々に入り込み、愚かな女たちをたぶらかしている者がいます。その女たちは、さまざまの情欲に引き回されて罪に罪を重ね、

3:7 いつも学んではいるが、いつになっても真理を知ることのできない者たちです。

### ペテロ第二 2 : 1-3

2:1 しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現れるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。

2:2 そして、多くの者が彼らの好色にならい、そのために真理の道がそしりを受けるのです。

2:3 また彼らは、貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食べ物にします。彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行われており、彼らが滅ぼされないままにいることはありません。

この預言において重要な事柄が 3 つあります。

a) 世界中のすべての国民。 神の条件を満たせば、人種や肌の色、身分に関係なく、すべての人が神の聖霊を受け、神の御国に入れます。

終わりの日には、もはやユダヤ人の宗教ではなくなります。かつては、神の選民であるユダヤ人だけのものでしたが、今では全世界を巻き込んでいます。これが、五旬節であらゆる国の言語が話された理由です。(17-18 節)

- b) 万民による預言の働き。これを正しく理解するのが重要です。預言の本質は、「神のみことばを告げ知らせること」です。旧約聖書では、神に書き記すように命じられたことを預言者が記録しました。そこに、個人的な解釈はありません。終わりの日となった今では、世界中のすべての人が神のみことばを手に入れられると、ペテロは言っています。全世界の人々が神のみことばを告げ知らせ、教えることができるようになるのです。それは五旬節に始まりました。その日、弟子たちはその当時にその地域で知られていたすべての言語で神のみことばを教えました。その証拠に、人々は母国語で神のすばらしい御業について聞きました。
- c) 救いは、主の名を呼び求めるすべての人に与えられる。ヘブル語では、人の名前はその人を確認する目的だけでなく、その人そのものをあらわすものでした。イエスをとおして救われることを望む人は、イエスのことを知る必要があります。だからこそ、ペテロは聖霊についてではなくイエスについて語ったのです。

## 2. 詩篇とイエス (22-36 節)

次に、ペテロは詩篇とイエスを結びつけます。ここからが、ペテロの説教の本題です。ペテロはまず、イエスの生誕、働き、死、そして復活について述べます。ナザレのイエスは、人々の前で行われた奇跡やしるしをとおして、神から承認された人物だ、とペテロは群衆に語ります。ルカはここで、人のしたことと神のなされたことを対比します。人のしたこととは、「不法な者の手によって十字架につけて殺しました」という部分です。神は、イエスを死からよみがえらされました。ペテロは、これが神のご計画の一部であったと説明します。悪魔は悪い策略を巡らしましたが、神は来たるべき神の怒りから多くの人々を救うという善いご計画を立ててくださいました。さらにペテロは詩篇 16 : 8-11 を引用しますが、なぜでしょう。この箇所を引用することで、群衆に何を教えようとしていたのでしょうか。まず、そこに集まっていた人々は敬虔なユダヤ人でした。彼らは聖書のみことばをよく知っており、ダビデ王を英雄視していました。ダビデが語った預言の言葉は、イエス・キリストの復活についてでした。ここで詩篇 16 : 8-11 をとおしてダビデを持ち出した理由を推察する必要はありません。ペテロが 29-32 節でそれを説明してくれています。

### 使徒 2 : 29-32

2:29 兄弟たち。父祖ダビデについては、私はあなたがたに、確信をもって言うことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日まで私たちのところにあります。

2:30 彼は預言者でしたから、神が彼の子孫のひとりをして彼の王位に着かせると誓って言われたことを知っていたのです。

2:31 それで後のことを予見して、キリストの復活について、『彼はハデスに捨てて置かれず、その肉体は朽ち果てない』と語ったのです。

2:32 神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。

ペテロは、イエスの死と復活を神があらかじめ知っておられたことを示すさらなる証拠を提示します。神は、このことが起こるはるか昔から、それをご計画しておられました。ペテロは次に、詩篇 110 : 1 を引用し、イエスの昇天に言及します。

### 使徒 2 : 34-36

2:34 ダビデは天に上ったわけではありません。彼は自分でこう言っています。『主は私の主に言われた。

2:35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまではわたしの右の座に着いていなさい。』

2:36 ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。』

イエスの復活と昇天についてペテロは旧約聖書を引用しました。それがルカによって書き記されましたが、これにより、聖書全体がすべてイエスについてであるという事実にさらに重みがかかります。

イエスは、復活して弟子たちに現れたとき、この事実について語られました。

#### ルカ 24 : 44

24:44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」

イエスの死と復活、そして昇天が聖書で預言されていたことを、ここに集まっていた敬虔なユダヤ人が認めることが重要でした。

### **3. 群衆の反応 (37-41 節)**

#### 使徒 2 : 37

2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。

37 節には、「心を刺され」とあります。

こう訳された原語のギリシャ語の単語は、罪を示される、良心の呵責にさいなまれるといった意味です。

彼らは、ユダヤ人の救い主の死を後押ししてしまったことに初めて気付きました。

罪深い人類の罪の罰を負うために神の御子をこの世に送ることが神の大いなるご計画の一部だったとはいえ、これらのユダヤ人がイエスを死に追いやってしまった罪に目をつぶることはできません。

罪を示された群衆はすぐさま、ペテロをはじめとする使徒たちに、どうすればよいかと尋ねました。

これに対するペテロの返答が 38 節にあります。

#### 使徒 2 : 38

2:38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。

この個所は明確に理解しなくてはなりません。

現代、多くの人々がクリスチャンになろうとしますが、悔い改める覚悟はありません。

そこを飛ばして、教会に通い、自分はクリスチャンだと思い込む人もいます。

では、悔い改めとはどういう意味でしょう。

これを、2019 年の大阪で暮らす私たちの生活にどう当てはめることができるでしょう。

旧約聖書では、悔い改めという単語が 50 度以上も登場し、どれも、罪に背を向けて神のもとに立ち返ることを意味しています。

エゼキエルもこの単語を 3 度使っていますが、「立ち返る」と訳されている個所もあります。

#### エゼキエル書 14 : 6

14:6 それゆえ、イスラエルの人に言え。神である主はこう仰せられる。悔い改めよ。偶像を捨て去り、すべての忌みきらうべきものをあなたがたの前から遠ざけよ。

#### エゼキエル書 18 : 30

18:30 それゆえ、イスラエルの人よ、わたしはあなたがたをそれぞれその態度にしたがってさばく。——神である主の御告げ——悔い改めて、あなたがたのすべてのそむきの罪を振り捨てよ。不義に引き込まれることがないようにせよ。

### エゼキエル書 33 : 11

33:11 彼らにこう言え。『わたしは誓って言う。——神である主の御告げ——わたしは決して悪者の死を喜ばない。かえって、悪者がその態度を悔い改めて、生きることを喜ぶ。悔い改めよ。悪の道から立ち返れ。イスラエルの家よ。なぜ、あなたがたは死のうとするのか。』

イザヤ書 1 : 16-17 では、この単語を実生活でどのように適用するかという例が記されています。

### イザヤ書 1 : 16-17

1:16 洗え。身をきよめよ。わたしの前で、あなたがたの悪を取り除け。悪事を働くのをやめよ。

1:17 善をなすことを習い、公正を求め、しいたげる者を正し、みなしごのために正しいさばきをなし、やもめのために弁護せよ。」

新約聖書では、バプテスマのヨハネがイエスのために道を備えていたとき、悔い改めのバプテスマを教えました。(マルコ 1 : 4)

イエスは「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」という言葉をもって、宣教を始められました。(マタイ 4 : 17)

新約聖書のギリシャ語の単語は、心を変えて、その結果、行いも変わるという意味です。

つまり、罪深い生き方や行為をやめるほどにはっきりと罪を示され、自分の状態の唯一の解決として神にすぎるという意味です。

ルカ 15 : 11-19 に登場する放蕩息子の人生が、良い例です。

### ルカ 15 : 11-19

15:11 またこう話された。「ある人に息子がふたりあった。

15:12 弟が父に、『お父さん。私に財産の分け前を下さい』と言った。それで父は、身代をふたりに分けてやった。

15:13 それから、幾日もたたぬうちに、弟は、何もかもまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して湯水のように財産を使ってしまった。

15:14 何もかも使い果たしたあとで、その国に大ききんが起こり、彼は食べるにも困り始めた。

15:15 それで、その国のある人のもとに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって、豚の世話をさせた。

15:16 彼は豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいほどであったが、だれひとり彼に与えようとはしなかった。

15:17 しかし、我に返ったとき彼は、こう言った。『父のところには、パンのあり余っている雇い人が大ぜいいるではないか。それなのに、私はここで、飢え死にしそうだ。

15:18 立って、父のところに行って、こう言おう。「お父さん。私は天に対して罪を犯し、またあなたの前に罪を犯しました。

15:19 もう私は、あなたの子と呼ばれる資格はありません。雇い人のひとりにしてください。』

放蕩していた息子は、自分が神と父親に対して罪を犯したことを認めました。

そして、マタイ 3 : 8 でバプテスマのヨハネが語った、悔い改めの実を示しました。

息子はへりくだり、父親の息子と呼ばれる資格はないと認め、しもべとなろうとしたのです。

私たちはどうでしょう。これまでの人生で、自分の罪を深く悟り、罪を捨てて神のもとへ立ち返ろうとしたことはありますか。

ある人にとっては、それは家に仏壇を置くのをやめたり、神社に行くのをやめたりすることかもしれません。

また別の人にとっては、イエスとの歩みに良くない影響を及ぼす人とのかかわりを断ち切ることもかもしれません。

自分はクリスチャンだというすべての人にとって、悔い改めは生涯続く働きです。

私たちは悔い改めをとおしてクリスチャンになりましたが、イエスと歩み続けるのも、悔い改めをとおしてです。

この個所のユダヤ人にとって、次のステップは 38 節に記されています。それは、イエスの名によって洗礼を受けることです。

これは、ユダヤ人にとっては屈辱でした。

その理由は、異邦人がユダヤ教に改宗した時にだけ、洗礼が必要とされていたからです。もうひとつの理由は、自分たちが退け、十字架につけると叫んだ人の名によって洗礼を受けるという事実です。

公衆の面前で洗礼を受けるといのは、当時のユダヤ人にとって、おおごとでした。

イエスが十字架にかけられてまだ 50 日しか経っていなかったのも、まだ人々の記憶に新しい出来事でした。

彼らが悔い改めて洗礼を受けたことで得る大きな祝福は、罪の赦しです。

ペテロの言葉に従えば、神は彼らの罪を赦し、その罪をもはや思い出されません。

#### 詩篇 103 : 11-14

103:11 天が地上はるかに高いように、御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。

103:12 東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。

103:13 父がその子をあわれむように、【主】は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。

103:14 主は、私たちの成り立ちを知り、私たちがちりにすぎないことを心に留めておられる。

同じことが、現代の私たちひとりひとりにも言えます。私たちが悔い改めて、イエスを信じるなら、神が罪の重荷を取り去ってくださいます。

#### マタイ 11 : 28-30

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

最後に、38 節で、悔い改めて洗礼を受ける人々に聖霊が約束されています。

聖霊という賜物が与えられる理由はいくつかあります。

- a) 天国で過ごす未来を保証するため。 罪が赦され、神の子となり、神に受け入れられ、愛されているという確信を心に与えるためです。(エペソ 1 : 3-14)
- b) イエス・キリストの証人となるため。 彼らは、神のいのちを吹き込まれました。こうして、聖霊の助けのもと、イエスの働きを続けることができます。(使徒 1 : 7-8)
- c) 生き方を磨くため。 汚れを取り去り、聖霊のきよさと力を代わりにいただきます。(ヨハネ 16 : 7-11、エペソ 4 : 25-32、コロサイ 3 : 12-17)

#### 4. 教会の原型 (40-47 節)

ここで、「原型」という言葉を使いましたが、これは、第一号、最初の製品という意味です。それをもとに、その後の製品が作られます。

この個所から、初代教会がどのような様子だったかがわかります。

この個所だけで、ひとつのメッセージを語ることもできますが、今はそれだけの時間がないので、初代教会に欠かせない特徴をおおまかに挙げることにしましょう。

- a) 神のみことばを学びつけた。 彼らは、神に認められた使徒たちから学びました。しっかりと教会をやっていきたいなら、神のみことばを学ぶ者とならなければなりません。もし聖書通読をまだしたことがなくて、それぞれの書のおもな教えがわかっていないなら、そこから始めましょう。ヘンリエッタ・ミアーズ著「旧約聖書の概説」「旧約聖書の概説」または「イラスト 早わかり聖書ガイドブック」をお勧めします。これは、聖書全体の基本的なテーマを理解するのに役立つ本です。
- b) 交わり。 これは、単に他のクリスチャンと友だちになることではありません。交わりは、信仰の歩みを励まし支え合うことが含まれます。

##### 交わりの定義

交わりとはイエス・キリストにつながっているクリスチャン同士が深い永遠の絆で結ばれることです。

友だちと交わりは違います。友だちは、いっしょに過ごしたい自分の好きな人たちです。

交わりは違います。交わりでは、イエスの愛をもって、互いに愛し合います。イエスへの愛が深まると、聖霊によって生まれたイエスの子も深く愛することができるようになります。

- c) **ともにパンを裂く。(聖餐式)** 聖餐式は、イエスの死と、十字架の死の背後にある意味と教えを覚える機会です。

OICでは毎月、この大切な時間を持ちます。7月には、聖餐式を2回行います。8月は私が英国に帰って不在になるため、聖餐式を欠かさないため、一週間繰り上げて行おうと役員会で決めたからです。

- d) **祈り。** 祈りは、教会の生命線であり、各々の信徒の生命線でもあります。私たちは常に、前進しながら祈り、祈りながら前進すべきです。

- e) **分かち合い、互いの必要を満たす。** 初代教会では、実用的な方法で、互いの必要を満たしていました。聖書から、もっとも貧しかったのはエルサレムの教会だったことがわかります。パウロは、エルサレムの教会を経済的に支援するように、他の教会の信徒たちに勧めました。(コリント第一 16:1-4)

五旬節に救われた3千人がすぐに故郷に帰ったか私は知りませんが、ほとんどの人が帰ったでしょう。

教会には、世界の必要を満たそうと手を差し伸べる前に、自分たちの教会員のお世話をする責任があります。

- f) **福音宣教をする教会。** 最後に、初代教会は、福音宣教に熱心な教会だったことがわかります。47節には、人々が毎日救われたとあります。きっと、毎日近所の人たちに証をしていたのでしょ。この個所から明らかにわかるのは、神の聖霊が新生した信徒をとおして働いておられたことです。

47節には、主が人々を仲間に加えてくださったとあります。

聖霊は、ひとつのメッセージをもって団結した信徒たちをとおして働いておられました。それは、悔い改めて、主イエス・キリストを信じ、バプテスマをとおしてイエスを信じる信仰の証をするなら、聖霊という賜物を受けるというメッセージです。

私のメッセージはこれで時間切れとなりましたが、皆さんは、イエスを信じ、洗礼を受けて証をする時間がまだあります。どうか、そのことにおいて、時間切れにならないようにしてください。